

落ちついた豊かな心を養う茶道

【都留茶道会】

昭和三十二年、抹茶の表千家、裏千家、不白流の先生方が中心となって、都留茶道会が発足しました。その後、煎茶の花月菴流が加入し、茶筥供養や献茶などを行っています。

その外、都留市文化協会主催の都留市文化祭には茶道部門として茶席を設けて参加し、全国ふれあい俳句大会では、遠方より参加される方にお茶の接待を行っています。

日ごろは、左記の先生方の处でお稽古に励み、季節に因んだ茶会を催してお互いに、交流をしています。ぜひ、日本の伝統文化である茶道に参加されて、和敬静寂のところで一服のお茶をいただき、楽しい一時を過ごしてみませんか。

問合先

抹茶	裏千家	渡辺	幸子	☎(43)	3 8 9 9
	裏千家	野沢	得子	☎(43)	2 8 1 1
	裏千家	中野	つね子	☎(43)	3 1 1 2
煎茶	花月菴流	高取	祺子	☎(43)	3 5 1 1



都留茶道会の皆さん(茶筥供養)

生涯学習通信 生涯学習推進会議普及・啓発部会

楽しい風、生涯学習。



のびのび いきいき 生涯学習

生涯学習グループの紹介

現在、都留市内において各種団体に所属し、活動している学習グループや自主的に学習しているグループを紹介します。

楽しい風、生涯学習。



謡曲仕舞【都留宝生会】

「濡れぬ先こそ露をも厭え」というように、何事も新しい道にはなかなか入り難いものですが、いざ入ってみると、意外に楽しく、何であんなにためらったのかと思うようになるものです。私達は、宝生流の能楽(謡曲・仕舞など)を愛好している都留宝生会の会員ですが、先輩知人に勧められて入り、そのうちだんだんその魅力に取りつかれてしまった者達です。

城下町として、古くから先人たちによって受け継がれて来た宝生流の会は、今年で94回目の例会を迎えるまでになりました。

昨今は、各地で静かなブームの様に「薪能の会」が催されるようになってきました。日本人の心の中には、日本古来の芸能としての能楽への郷愁というか、あこがれというか、その心をとらえて、ゆさぶられる何かがあるからでしょうか。日本人の感性がそうさせるのかも知れませんが、うれしいことです。

香り高い文化都市を目指す都留市には、先人達が築いてくれた貴重な伝統が受け継がれています。私たちはこれを大事に、末永く後世に伝える責任があります。ひとりでも多くの同好の士を得て会を発展させたいと願っています。

“ 渋からか しらねど 柿の初ちぎり ”
千代女の句ですが、思い切って謡曲を始めてみませんか、年とるまで楽しめる生涯学習としてお奨めします。

謡曲・仕舞の手ほどき、稽古のできる所を紹介します。

明珠会	会長	高取堅二	☎(43)	3 5 1 1
弥文会	会長	横田文雄	☎(43)	2 2 1 8
水謡会	会長	兼松昇	☎(43)	6 3 8 3
清謡会	会長	伊藤敏	☎(43)	4 7 6 6
竜宝会	会長	広瀬久	☎(43)	2 4 9 0
つつ美会	会長	小俣和江	☎(43)	3 8 2 0



都留宝生会の皆さん